

パキスタン国畜産開発を通じた生計向上プロジェクト

エクト 第1号：2023年1月



○これまでの活動進捗の概要

ハイバル・パフトゥンハー州（KP州）畜産局の公式文書によりプロジェクトは2021年1月15日から開始された。第1回JCCは2021年4月のコロナ禍で開催され、ワークプランの合意を得てプロジェクト活動を開始した。県毎（アボダバード、マンセラ、ハリプール）に4カ所、3県の合計12カ所のモデル村を選定し、次いでパイロット農家は男性11戸、女性11戸、合計22戸を選定した（男女の農家を同数選び女性農家のエンパワメントも目指している）。

○飼料改善によるパイロット農家の乳量増加、飼料購入への興味

2022年3月から11モデル村の男女パイロット農家のうち18戸を対象に、プロジェクトが栄養保証した配合飼料(*)を農家毎に1頭を試験牛として給与した。すべての農家において乳量増加が確認され、効果を実感した農家で配合飼料購入の興味が高まってきている。



*配合飼料とは、搾乳牛用、肥育用、子牛用など目的の養分を充足するため、数種類の濃厚飼料を混合し、塩やミネラルを含んだバランスが取れた飼料。

○診断研修の実施

繁殖障害(*)の診断と治療の研修を開始した。診断の基本となる直腸検査は全員がビキナー、臓器実習も全員が初めてなど難しい指導となっているが、研修生（畜産局職員の獣医師）は大変ポジティブな姿勢で学び、第2回研修では直腸検査による子宮および卵巣の触診技術が、徐々に上達しつつある。触診結果のみではなく、外貌所見など全体の兆候をとらえ正しい繁殖診断ができるよう指導している。

*繁殖障害とは、雌雄ともに一時的または持続的に繁殖機能が停止または障害されて正常な子牛を生産し得ない状態をいう。



○保定枠(*)の設置

MSパイプによる簡易保定枠は、全パイロット農家、繁殖研修用の屠畜場、アボダバードの動物病院、合計20基を設置した。この保定枠を活用することにより農家での家畜の治療と予防、直腸検査が容易となり、そして体重測定が可能となる。

*牛の保定枠とは、治療、予防、体重測定、削蹄、その他の牛の管理を安全かつ容易に行うため牛の枠場施設。



○搾乳技術の改善

農家での乳房炎は治療しても次から次に発症し、予防のための技術指導が喫緊の課題であり、アボタバード：1戸、マンセラ：2戸、ハリプール：5戸、合計8戸で調査を行った。搾乳牛の乳房炎感染率は27頭中12頭で44%と高率であった。この乳房炎感染率を下げるため正しい搾乳技術の指導を開始した。複数の農家で乳房炎が0頭になり、乳量が増加するなど顕著な効果が示されている。

